様式

令和５年度ひろしま自然保育推進事業　活動報告書

令和６年４月３０日

団体所在地　東広島市鏡山北 333－2

団体の名称　広島大学附属幼稚園

職 ・ 氏 名　園長・七木田　敦

（施設名　広島大学附属幼稚園（東広島園舎）

1　活動報告

【４月～６月】(春季)

・草花遊び
・春の生き物とのふれあい
・親子で山登り
・森の日

【７月～９月】(夏季)

・水遊び
・夏の生き物とのふれあい
・園庭の木のみや夏野菜に親しむ
・森の日

【１０月～１２月】(秋季)

・秋の自然とのふれあい
・秋の生き物とのふれあい
・たきびで料理
・森の日

【１月～３月】(冬季)

・冬の自然とのふれあい
・氷遊び
・たまねぎ植え
・山越え探検
・森の日

活動報告（詳細）

１シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード１つご記入してください。
エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。
写真は基本１枚です。

【４月～６月】

「親子で山登り」
６月の日曜日に親子で幼稚園の自然に触れる日を設けている。園庭でふれあい遊びをした後、山頂に向かう３つのコースから親子で話し合い、行きたいコースを一緒に登って降りてくる活動である。初級、中級、上級コースになっており、子どもの意欲と保護者の挑戦が合致したりしなかったり。普段の子どもたちが遊んでいるフィールドを保護者が体験するいい機会になった。保育者は子どもたちとともに頂上をめざしながら、普段の子どもたちの挑戦を保護者に話したりしていった。
子どもの見取り。保護者が自分の遊び場に来てくれる喜びを感じていて「ここは魔女の家があるから静かにいくんだよ」などと教えている姿に、ここは自分たちの居場所という意識をもっているように感じた。

【７月～９月】

「ヤマモモシロップ（ジュース）づくり」
園庭で収穫した梅の梅ジュースづくりに続き、森で収穫したヤマモモをジュースにしたいという子どもたちの思いから、ジュースづくりが始まった。朝から保育室に甘いいい香りが漂い、子どもたちは順番にかきまぜて作っていった。
保育者は子どもたちが自分たちでかかわれる段取りをしていき、自分たちで作ったと思えるようにしていった。
子どもたちの見取り。食べることができる自然物が身近にあることで、食への関心が高まっていた。作って食べるという行為は記憶に残りやすく、年度末にも思い出して口に出していた。学年があがってまた繰り返すことで季節を感じることができる。

【１０月～１２月】

「4 歳 A 児の挑戦」

友達が高いターザンロープに乗っているのを見てやってみたい思いをもった A 児。でもこわいという思いもあり、なかなか足が進まない。ターザンロープを前に心の中で葛藤が続いた。保育者は今の A 児なら手を出さず見守ることでできたときの自信につながると確信し、後ろから見守っていた。葛藤の末 A 児は自分の力で乗ることができた。

A 児の見取り。

今までは比較的簡単にできるものへの挑戦はしていたが、今回は難易度の高いものに挑戦した。精神的支えである保育者の存在もあり、自分の力で乗ることができたときは大喜びというより、ほっとした安心感を味わうとともに、できた喜びを噛みしめているようだった。

【１月～３月】

「山越え探検」

園生活で自然にかかわることを積み重ねた年長組が 2 月に行う山越え探検である。いつも裏山の頂上までは行くが、今回は反対側の山へ降りる活動。各グループ３，４人で子どもたちだけで判断しながら降りていく。保育者は各グループに一人つくが、口は出しない。道なき道を行きながら、ふもとのゴールをめざす子どもたち。途中不安になり、「やっぱりこっちじゃないと思う。戻ろうよ」「ここまできたんだから」などグループ内でやりとりをしながら進んでいった。

子どもたちの見取り。

大人が入らないことで自分たちで何とかしないといけないという意欲とともにくる不安が、達成したときの充実感、自信に変化していた。

２　その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

・　職員の資質向上について

各学年の森の日において、子どもとともに職員もフィールドワークをする（毎月）

・　地域との関わりについて

森の日で森の達人にきてもらい、子どもたちと自然遊びを楽しむ（毎月）

・　保護者との関わりについて

家族であそぼうという活動で親子で森に入り、一緒に遊ぶ（6 月）

・　その他

＊より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページや SNS の URL をご記入ください。

ＵＲＬ	